プログラム

岸田國士

青空文庫

毎月僕のところへも、各種の劇団からプログラムと切符とを送つてくれる。プログラムにはひと通り眼を通すが、切符は利用すること稀である。失礼だが、僕の食慾をそそるに足るものがない。作者も脚本も俳優も演出家も、それらを知ると知らざるとに関係なく、舞台は大体想像がつく。プログラムの匂ひをかげばわかるやうな気がする。

なかには、僕の脚本を無断で上演してゐるのがある。そんなのは、なほさら見なくてもわかる。

体裁だけはなかなか凝つてゐるが、筋書の文章が幼稚でキザで情けないものが多い。要するに、プログラム一つで、劇団の精神、頭脳、面貌、歩き方が、自ら察せられることは事実だ。どんなに一生懸命でも、どんなに宣伝に骨を折つても、信用できないとなれば誰も観に行く気はせぬであらう。

ところで、近頃、珍しくこのプログラムが、僕を緊張させた例がある。また無断上演かといふと、さうではない。ある劇団で僕には未知の作者の脚本を上演するのだが、プログラムの筋書を何気なく読んで行くうちに、これは相当いいものに違ひないと、僕は更めて作者の名を見た。創作劇不振の今日、先づ佳作の部に属すべきものではなからうかと、それからこの作品の載つた雑誌のありかを考へたりした。演出者の名前から推しても、あるレベルに達したものに相違ないといへるのだが、しかし僕は、この新作家の出現を、なにかしら、由々しいことのや

うに感じた。

その後多忙を極めてゐて、実はまだその作品の載つた雑誌を手にしないでゐるが、実物を読まぬさきに運試しのやうな心持で、このノオトを書きつけておきたいのである。

それは創作座の出し物の一つ、真船豊作「鼬」のことである。この若い劇団は、今度の旗揚興行に、もう一つの岡田女史の「数」をも含めて、先づその出し物に於ては成功したと断じてよからう。

プログラムの誘惑とはかくの如きであらう。（一九三四・一〇）

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集22」岩波書店
　1990（平成2）年10月8日発行
底本の親本：「現代演劇論」白水社
　1936（昭和11）年11月20日発行
初出：「劇作　第三巻第十号」
　1934（昭和9）年10月1日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2009年9月5日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

プログラム

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/